

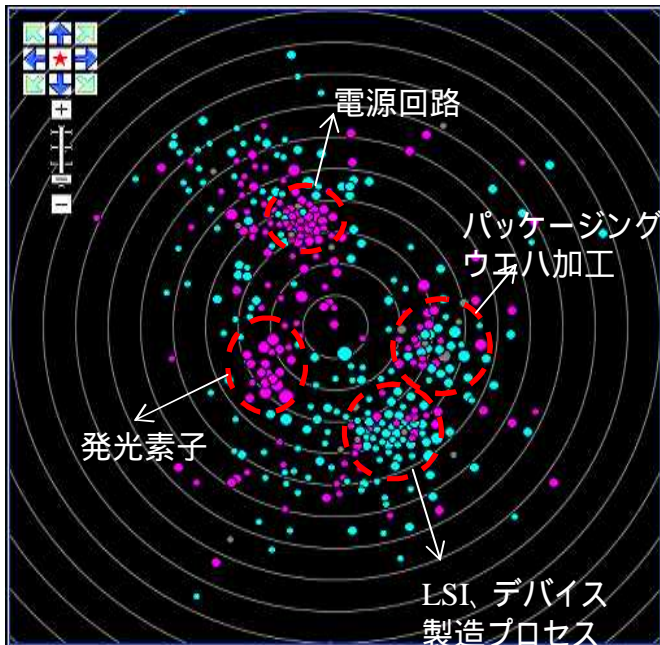
## M&Aを技術の視点から分析 ロームによる沖電気半導体事業の買収事例

### ロームと沖電気事例

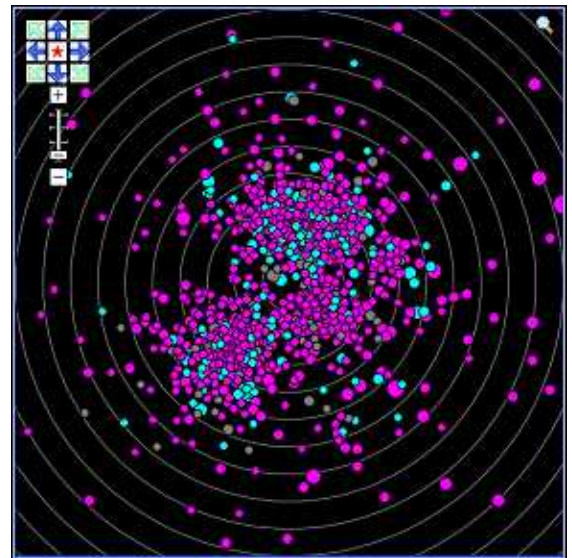
沖電気は2008年5月28日、半導体部門をロームに売却すると発表した。

### 参考: 富士通と沖電気 半導体技術解析結果

ローム      沖電気



富士通      沖電気



1つの点は1つの特許集合(クラスタ)を意味しています。類似性の高い特許は同じクラスタに入ります。大きいクラスタは多くの特許を含んでいます。内容の近いクラスタ同士は近くに配置されます。クラスタが集中している領域は研究開発が活発な分野です。

XLUSの解析結果によれば、両社はそれぞれの得意分野を持ち、**補完の関係**になっている。  
ロームは買収によって、システムLSI分野の知財を獲得。

XLUSの解析結果によれば、富士通と沖電気の半導体事業における技術開発は、ほぼ重複しており、**競合の関係**になっている。  
仮に、これら二社の半導体事業を統合しても、著しいシナジー効果は期待しにくい。

M&A候補の探索、シナジー効果の分析に、  
XLUS(カイラス)をご活用ください。

～お問い合わせは、下記まで～

株式会社 **創知**

Tel: 03-6231-7910

<http://so-ti.com/>